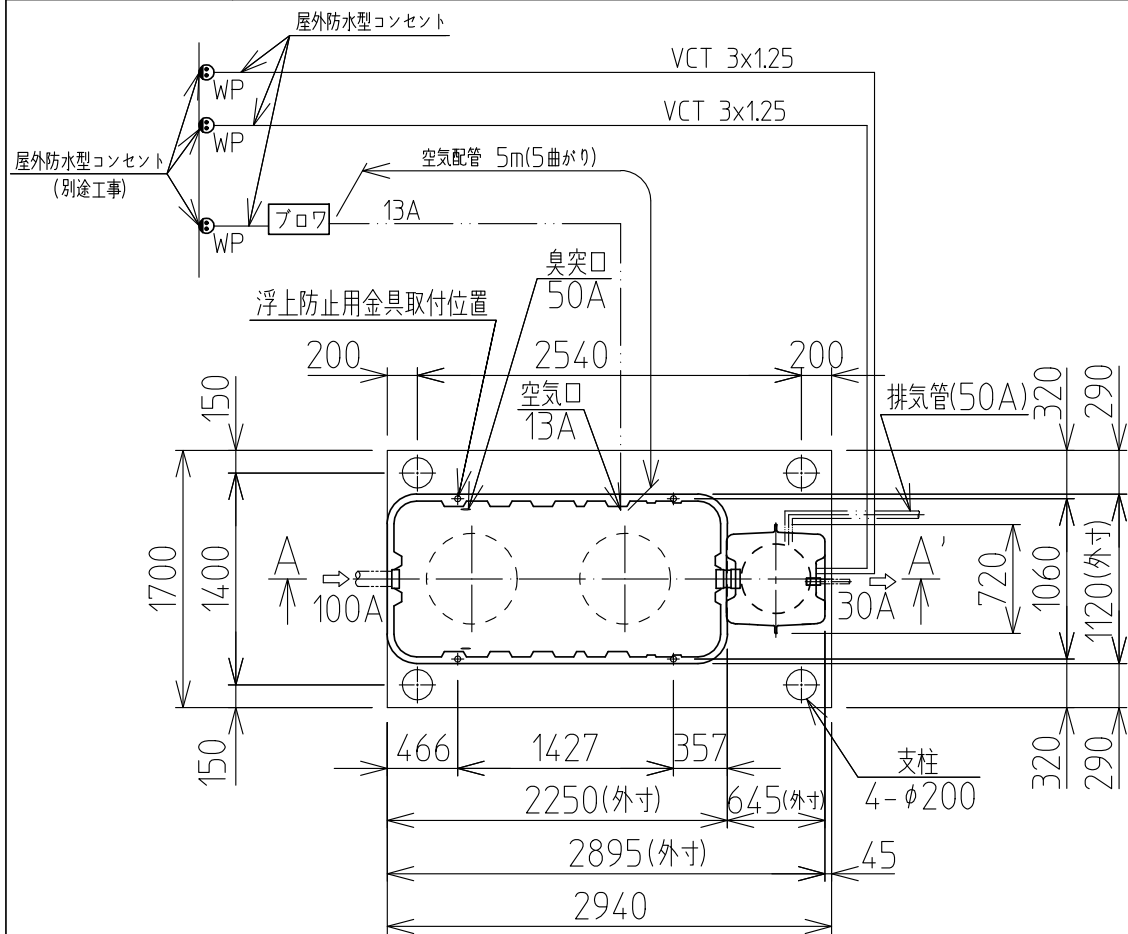
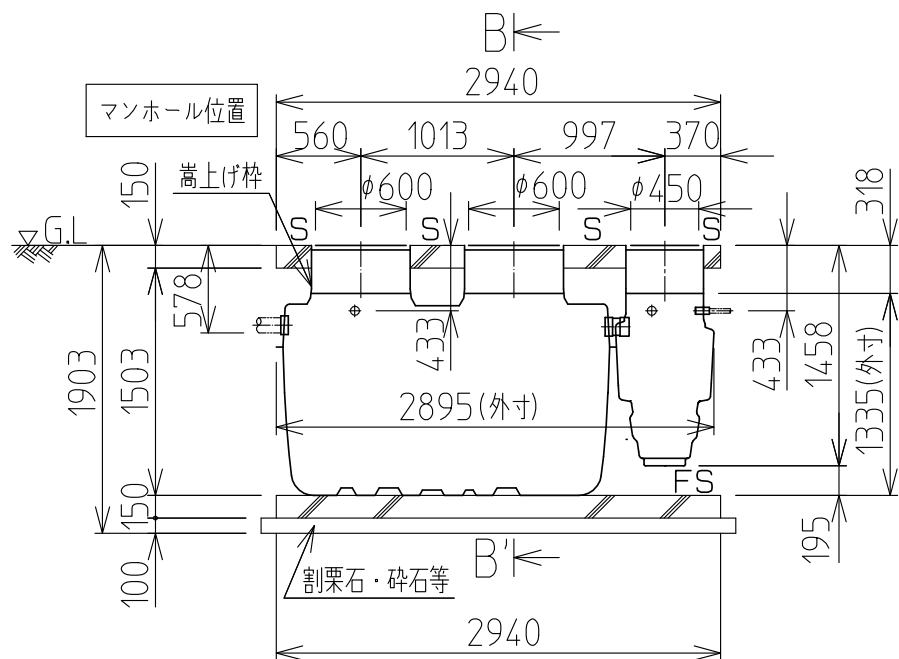
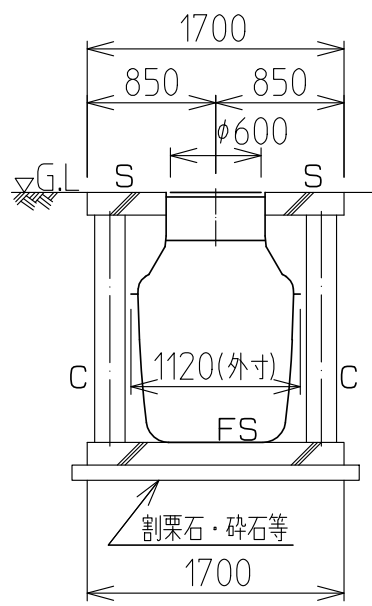




平面図



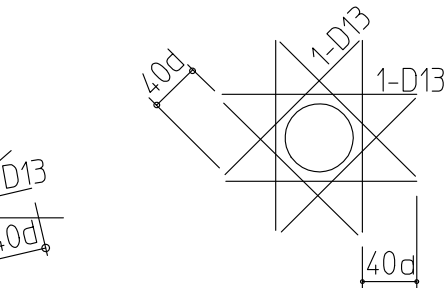
A-A'断面図



B-B'断面図

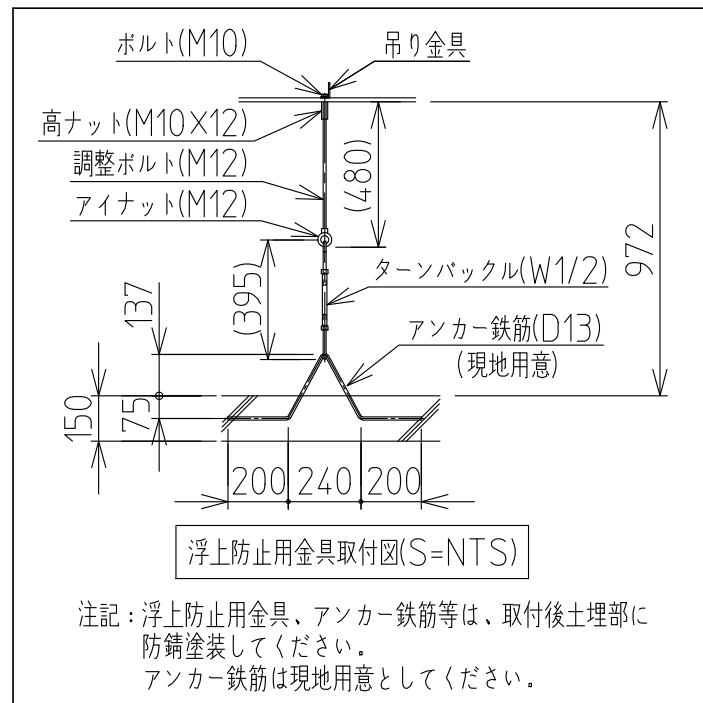


支柱配筋



開口部補強筋

浮上防止用金具



配筋仕様		仕様	
名称	版厚	記号	仕様
床スラブ	150	S	X方向 D13 @200 シングル
			Y方向 D13 @200 シングル
基礎スラブ	150	FS	X方向 D13 @200 シングル
			Y方向 D13 @200 シングル
支柱	φ200	C	主筋 4-D13 H00P D10@100
(注記)			
鉄筋		SD295A	
コンクリート		FC=21N/mm ²	
開口部補強筋		各1-D13	
マンホール仕様		T-2仕様、安全荷重5kN	
		T-6仕様、安全荷重15kN	
地耐力		49.1kN/m ² (5t/m ²)	

施工高さ範囲					
マンホール仕様	項目	嵩上げ高さ	流入管底	放流管芯	施工全高
樹脂製	最小寸法	63H	G.L-360	G.L-215	1685H
	本図面	281H	G.L-578	G.L-433	1903H
	最大寸法	300H	G.L-597	G.L-452	1922H
鋳物製	最小寸法	38H	G.L-360	G.L-215	1685H
	最大寸法(本図面)	256H	G.L-578	G.L-433	1903H

- 注記)
- 本図は施工図(例)です。設置場所の状況を確認の上、工事の仕様を検討し、施工してください。
 - 本図は車両総重量2.0t以下および6.0t以下の車を通る場所に設置する浄化槽工事仕様の施工図です。
 - 積雪高さ1m以下の場所に設置してください。
 - 嵩上げ枠は現地に高さ調整して施工ください。
 - 屋外防水コンセント(アースターミナル付)を用意してください。(別途工事)
電源の一次側には、漏電遮断器(ELB)を付けてください。
(放流ポンプの電源には、各ポンプ毎に1個ずつ取付けてください。)
 - 流入管、流出管、臭突管、排気管、空気管(浄化槽へ機器)、電気配線、電線管は現地に用意ください。
 - ブロワは仕様異なる場合があります。
 - 地下水位が基礎スラブ上面から40cm以上の場合は、浮上防止工事を行ってください。
 - 放流ポンプの配線は、内径28mm以上の電線管を使用してください。
(電線管内にポンプのプラグを通す場合は、内径36mm以上の電線管を使用してください。
その際、電線管の接合部は、発泡ウレタンにより気密シールを行ってください。)
 - 放流ポンプの電線管端部は、発泡ウレタンにより気密シールを行ってください。
 - 放流ポンプ槽が付く場合は、必ず臭突管工事または排気管工事を行ってください。
 - 工事前に施工要領書をお読みいただき、正しい施工を行ってください。
 - 行政庁等の指導がある場合は、行政庁等の指導に従ってください。
 - 本図は構造強度上最低限必要な寸法及び仕様としています。施工仕様の変更が必要な場合は見直してください。
 - 建築物、道路沿いおよび崖下等は、非常に大きな土圧が浄化槽にかかりますので、浄化槽を建築物等から荷重のかからない位置まで離して設置してください。離して設置できない場合は、よう壁を設けてください。

製 図	ヒラカワ	20-02-03	第 三 角 法		品名 T-2・T-6仕様、深埋め300 KRS-7AP 施工図(例)
審 査	ツカモト	20-02-03	入庫入 20-02-03 庫	尺度 1 : 50	
承認	ヒビノ	20-02-03			
株式会社 ハウステック					結城図番 YUD164866 △1